



県北教育事務所 社会教育だより

つながれ KENPOKU

令和6年10月31日 発行

今回は、福島県社会教育研修会で実施した講話や協議・情報交換についてお伝えします。

令和6年度福島県社会教育研修会 10月1日（火）大玉公民館

研修テーマ：村の家庭教育について考えてみる
～孤立する家庭・保護者をどう救っていきけるか

大玉村では、新興住宅地が各地区で増えており、新しい地で生活している園児・児童・生徒及び保護者がいます。現在行っている家庭教育支援の内容を確認しながら、「課題は何か?」「どんな支援が必要なのか?」を様々な角度から検証し、意見を出し合うための研修会を実施しました。

「講話：地域における家庭教育支援事業の役割」

1. 地域における家庭教育支援の必要性

〈なぜ家庭教育が必要なのか?〉

子育てに不安を抱える保護者
生活習慣の乱れ
不登校・児童虐待

増加



〈必要な手立ては?〉国、県の方針から

★家庭教育支援チーム構築
★※アウトリーチ型支援の人材・予算の確保
★規則正しい生活習慣の確立

※アウトリーチ型→※家庭へ出向く訪問型

2. 福島県及び県北教育事務所の取組

(1) 家庭教育応援プロジェクト

〈地域家庭教育推進ブロック会議〉

→ 県北域内の家庭教育の課題を確認し、事業推進の方向性を決定

〈親子の学び応援講座〉

→ 各地区のPTAを対象に、親の学び・家庭での実践を支援する講座を実施

〈家庭教育応援企業推進活動〉

→ 家庭教育の推進に取り組む企業と連携し、地域の家庭教育を推進



【R5 親子の学び応援講座】



〔大玉公民館〕
大玉村農村環境改善センター

(2) 家庭教育応援リーダー育成事業

〈家庭教育支援者地区別研修会〉

→ 地域の家庭教育支援者の実践力を高め、その支援者をリードしていく人材を育成



〔R5研修会の様子〕

(3) 家庭教育支援チームの推進

〈福島県の方針から〉

すべての保護者が安心して家庭教育を行うためには?

→ 学校や行政機関とは異なる

身近な地域住民としての立場

から、家庭をサポートしていくことが効果的



〈推進内容〉

★家庭教育支援チームの構築を推進

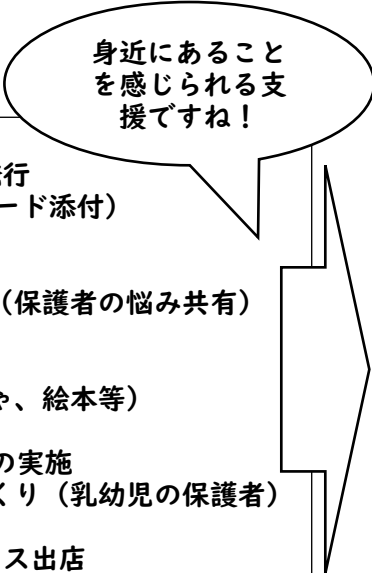
→ 現在、県北管内3つの支援チームが登録

★家庭教育支援チームスキルアップ研修会の実施

→ R5年度は、年に2回実施

「グループ協議・情報交換」

1. 大玉村の家庭教育支援



- ★₁ 子育て応援チラシ「たまチャンネル」の発行
→子育てする保護者への情報提供 (QRコード添付)
- ★₂ 「お休みスペース」の開設
→授業参観、個別懇談の空き時間を利用 (保護者の悩み共有)
- ★₃ 「おゆずり会」の開催
→各家庭同士のリサイクル (服、おもちゃ、絵本等)
- ★₄ 「ブックスタート」「サイコロトーク」の実施
→絵本の読み聞かせや交流のきっかけづくり (乳幼児の保護者)
- ★₅ おたまコミュニティフェスタ」へのブース出店
→子育て世代の村民も楽しめる機会づくり
(仮装キット、帽子、マント作成及び写真撮影)

- ★₁ 困ったときに連絡しやすいように紙媒体と SNS で周知
- ★₂ 気軽に立ち寄れる機会と場所を創出
- ★₃ 保護者同士の想いや考えを共有し、リサイクルを学ぶ機会づくり
- ★₄ 同級生保護者同士の交流機会づくりと子どもに関わる時間づくり
- ★₅ 子育て支援者が村内にいることを周知して、孤立化防止の取組

2. グループ協議・情報交換

各会場4グループに分かれて話し合いを行いました。最後には、グループで話し合われた内容について全体で共有を図りました。



【グループで意見を出し合う様子】



【お互いの意見をまとめている様子】



【各グループの意見を共有しました】

〈各グループからの意見を抜粋してみました〉

【お休みスペースについて】

- ・学校にいる間についてに参加できるので活用してほしい。
- ・幼稚園で同じような実践をしてほしい。

【居場所づくり】

- ・改善センターや公民館などに常に遊びに行ける場所があるとよい。(保育士常駐なども)
- ・近所で顔と名前、家の場所を知っていることは非常時にも役立つ。
- ・現在の子育て事情を考えると、孫を子守している祖父母の交流場所も必要なのではないか。

【地域活動の重要性】

- ・子ども会の復活が望ましい。親同士の関わりがほしい。
- ・コロナ禍も落ち着いたので、行事を始めたい。

【相談・発信の方法】

- ・村内の機関・施設・教育や学習に関わる方々を紹介する村内巡回ツアーの実施。
- ・写真付きの情報発信をして、村外からの越してくる子育て世代が安心できるようにする。

【組織との連携】

- ・村内の子育て支援組織と社会福祉協議会や学校PTAとの連携ができないか。

～感想から～

普段の生活の中で得られない情報を学ぶことができました。子育て世代、現役世代、教育関係者が混ざって話し合う機会が大玉村にはたくさんあり、よい環境だと改めて感じました。